

# 観光庁長官の県内視察と山陰における広域観光に関する意見交換会について

平成27年9月14日

観光戦略課

9月11日に就任されたばかりの田村観光庁長官が、山陰両県の広域観光連携に関する意見交換等のために来県され、観光施設等を視察するとともに、県内関係者との意見交換会を行いました。

## 1 視察日 9月11日（金）、12日（土）

## 2 観光庁長官視察箇所

DBS旅客ターミナル、水木しげるロード、夢みなとタワー、大山（ダウンヒル体験、圓流院）、日本遺産三徳山・三朝温泉（木屋旅館、三徳山三佛寺）、砂の美術館、鳥取砂丘、鳥取砂丘コナン空港



水木しげるロード視察風景



大山でのダウンヒル体験

## 3 意見交換会

(1) 日時：9月11日

(2) 場所：皆生グランドホテル天水 金波

(3) 出席者：〔観光庁〕田村長官、中国運輸局長、観光庁地域競争力強化支援室長

〔旅館関係者〕鳥取県旅館ホテル生活衛生同業組合

〔経済・観光団体〕各商工会議所、商工会連合会、

〔観光団体〕県観光連盟

〔交通事業者〕JR西日本米子支社、鳥取県バス協会

〔市町村〕米子市長、境港市長、大山町長、三朝町長

〔鳥取県〕平井知事、観光交流局長、観光戦略課長、観光誘客室長



#### (4) 概 要

○平成27年6月に国土交通大臣が認定した広域観光周遊ルートにおいて、山陰両県の大部分がルート外となっていることから、平井知事より広域観光周遊ルートの再募集及び山陰広域観光周遊ルートの認定について要望を行った。

○観光庁長官からは「山陰両県の連携によりどのようなルート設定ができるのか、一緒に勉強し支援策を考えたい」との発言があった。

#### (5) 出席者の主な意見

○外国人観光客の受け入れ経験を積んだことから、外国人観光客でも身構えることなく、普段のサービスの範囲で受け入れができるようになり、そのサービスが喜ばれるようになってきた。さらには、外国人に対応できるようベッドの客室を設けるなどハード面の整備にも取り組んでいる。(旅館関係者)

○広域観光を実施する主体としてDMOの設置は必要。鳥取県内でも圏域ごとや山陰両県での検討が進もうとしている。観光庁からもDMOの在り方の情報提供など、様々な支援をお願いしたい。(市町長、経済団体)

○制度改正によるバス料金の値上がりにより主に日帰りバスツアーが減少し、事業者にも影響が出ている。国としても、事業者の裁量の範囲を広げるなど、柔軟な対応をお願いしたい。(交通事業者)

○鳥取県を海外に売り出し、今まで以上にインバウンドを進めるためには、山陰の広域周遊ルートは必ず必要。ぜひ設定に向けて努力してほしい。(経済団体、市町長)